

年頭ごあいさつ まちへの愛着が まちの未来を創る



舞鶴商工会議所
会 頭 小 西 剛

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、平成30年の新春をご家族お揃いでお健やかに迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、私は、企業、地域、市民、さらには広く社会全体から多くの支持と信頼がいただける商工会議所を目指して、役員・議員・会員の皆さんと一体となって、全力で取り組んでいく決意を新たにしています。

一昨年は、舞鶴商工会議所が創立されて70周年の年でしたが、日本にとっても、本年は平成時代最後の1年であり、日本が近代国家として歩み始めた明治維新から150年目にあたる実に大きな節目の年であります。

こうした中で、国の「骨太の方針」「未来投資戦略」「規制改革実施計画」「まち・ひと・しごと創生基本方針」の4つの計画は、「地方創生の加速」と「中小企業の活力強化」を両輪とした成長経済の実現を目指しています。

私たち舞鶴商工会議所は、これらを推進する中核的な組織として、「成長する経済」の実現に自ら主体的に取り組み、明るい未来を切り拓いていかなければなりません。

その一つとして「地方創生」を加速するためには、人口減少により地域内の需要が縮小する中、いかに地域外の需要・消費・投資を取り込みつつ、地域内で経済の好循環を生み出すかが大切なポイントです。

その実現手法である「観光振興」は、地域を超えた取り組みが可能であり、また、中小企業を中心に多くの業種が関連することができます。同時に、京都舞鶴港を有する本市においては旺盛なインバウン

ド需要を取り組むことで、地域における消費の拡大が期待できます。

もう一つの「中小企業の活力」を強化するためには、美味しい舞鶴のグルメ食材を活かした農林水産業との連携による地域経済の活性化を図ることです。

農林水産業の現場の課題と、商工業者が持つモノづくり技術や販売ノウハウを結びつけ、お互いの生産性向上と高付加価値化を実現することができるのは、私たち商工会議所です。

そして最も大切なことが、市民が自ら暮らすまちや生まれ育ったまちに、愛着や誇りを持つことです。

地域活性化のカギは、市民がまちの魅力に気づき、自らがこのまちの暮らしを楽しむことが第一です。SNS等の発達で人から人への口コミが世の中に大きな影響を与えています。それだけに個人が発信する内容がとて重要視されています。

なんといっても、故郷の魅力が一番よく知っている市民自らが、まちを楽しみ自慢することです。

私たちのまちは、海・山・川の豊かな自然と美しい景観、地域独自の歴史や伝統文化・芸術など魅力あふれる素晴らしい観光資源を持っています。そして、豊かな自然が生み出す美味しいグルメ食材にも恵まれています。

ふるさとを愛する私たちが、おもてなしの心でこれらの地域資源をフルに活かすことが、まちの賑わいを創出します。

明日の舞鶴を「輝く未来」にするために、本年も、舞鶴商工会議所に対しまして、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、舞鶴のさらなる発展と会員企業のご繁栄、並びに皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、年頭のごあいさつとさせていただきます。